

平成 25 年度 社会福祉法人三恵会事業報告書

1. 事業概要

特別養護老人ホームを中心とし、ショートステイ、ディサービス、在宅介護支援センター、ホームヘルプサービス、居宅介護支援事業所、養護老人ホーム等の社会福祉事業を行い、お年寄りの介護を通して、地域の方々の生活を援助しています。

2. 理事会及び評議員会

第1回 平成 25 年 5 月 26 日（日）ひかわ会議室

1. 平成 24 年度事業報告
2. 平成 24 年度収支決算審議及び監査報告
3. その他

参加者 評議員 10 名、理事 4 名、監事 2 名、事務局 3 名

第2回 平成 25 年 11 月 10 日（日）ひかわ会議室

1. 平成 25 年度 1 次補正予算について
2. 任期満了による役員変更について
3. 理事長の選出及び理事長代行者の選出
4. その他

参加者 評議員 10 名、理事 5 名、監事 2 名、事務局 4 名

第3回 平成 26 年 3 月 16 日（日）ひかわ会議室

1. 平成 25 年度 2 次補正予算について
2. 平成 26 年度事業計画と収支予算について
3. 就業規則・給与規程の変更について
4. 社会福祉施設等・介護保険指導監査の結果報告
5. 三恵苑、富士見園厨房への保健所立ち入り検査の結果報告
6. その他

参加者 評議員 8 名、理事 4 名、監事 2 名、事務局 4 名

3. 監査会

平成 24 年 5 月 18 日（土）ひかわ会議室に於いて

1. 平成 24 年度収支決算の監査

参加者 監事 2 名、事務局 3 名

特別養護老人ホーム三恵苑事業報告

1. 事業概要

人生の最後を悔いなく、楽しく送って頂けるように。そして『あたり前な生活が出来るように』 特養入居者 60 名と短期入所者 20 名のお年寄りの生活を支援しています。

2. 月間利用者延人数

(特養・短期合計)

24年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	2,242	2,394	2,243	2,431	2,405	2,255	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2,310	2,293	2,322	2,265	2,071	2,331	27,562
25年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	2,251	2,289	2,276	2,480	2,469	2,385	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	2,461	2,366	2,383	2,402	2,107	2,374	28,243

3. 入退苑の状況

退居者			入居者		
性別	年齢	退去先	性別	年齢	前住居
女	89	指扇療養病院	女	92	老 健
女	85	指扇病院	女	74	病 院
女	93	指扇病院	女	85	自 宅
女	94	市民医療センター	女	90	自 宅
男	85	指扇療養病院	女	92	病 院
女	90	苑にて看取り	女	87	老 健
女	98	苑にて看取り			
女	103	苑にて看取り			
女	106	苑にて看取り			

4. 在苑者の年齢構成

(3月末日現在)

	65~ 69	70~ 74	75~ 79	80~ 84	85~ 89	90~ 94	95~ 99	100~	平均	最高齢
男	0	1	1	3	6	2	0	0	85.9	94
女	0	5	2	10	9	14	2	3	86.6	104
計	0	6	3	13	15	16	2	3	86.4	

5. 入苑者の介護度別人数

(3月末日現在)

介護度	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	平均介護度
24年	3	7	21	16	13	3.5
25年	2	7	14	20	15	3.67

6. 事業所で行ったこと

4月	お花見の会、	10月	運動会、バスハイク
5月	端午の節句	11月	焼き芋会、外注食会
6月	外注食会	12月	クリスマス会、餅つき
7月	納涼祭	1月	新年の集い
8月	七夕の会、入居者健康診断	2月	節分の会
9月	敬老会	3月	ひな祭りの会

- その他毎月、ホーム喫茶、手作りおやつ、クラブ活動（書道クラブ、民謡クラブ、クレヨンクラブ、お花クラブ、ハンドベルクラブ）お誕生日企画を行いました。

7. 職員の状況

(特別養護老人ホーム、短期入所事業所の合計)

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
施設長	1		○	男	社会福祉主事
事務長	1			男	社会福祉主事
事務員	1			女	衛生管理者、ハバ-2
事務員		1		女	社会福祉主事
相談員	1		○	男	介護支援専門員、介護福祉士
相談員		1	○	女	介護福祉士
ケアマネ	1		○	男	介護支援専門員、社会福祉士
主任	2			女	介護福祉士
リーダー	1			女	介護福祉士
リーダー	1			男	介護福祉士
介護職	3	3		女	介護福祉士
介護職	7	1		男	介護福祉士
介護職	1			女	介護職員実務者研修
介護職	4			男	介護職員基礎研修
介護職	2	6		女	介護職員基礎研修
介護職	1			男	
介護職	2	1		女	
看護師	3			女	看護師
看護師	1	2		女	准看護師
栄養士	1			女	管理栄養士
介助員	1	1		男	
介助員		1		女	
宿直員		3		男	
合計	35	20	介護職員	： 入居者数	1 : 2.32

8. 各委員会

職員による各種委員会活動があります

- ・安全対策委員会
- ・ケア向上委員会
- ・身体拘束委員会
- ・褥瘡対策委員会
- ・感染症対策委員会
- ・マニアル委員会

9. 基本目標（重点課題）に対する自己評価

特養・ショート 基本目標	利用者の小さな変化にも気付ける様、良く観察し一人一人に合ったケアを行い、安心できる毎日をすごして頂く
重点課題	利用者様との関わりのなかで変化に気付く
評 価	中堅職員になりつつある職員の中で、数名は一連の業務の流れだけでなく、利用者様個々の状態変化の観察や気付きが出来てきているが、全体的に見れば満足できるレベルではなく、今後も指導が必要である。
特養・ショート 基本目標	スタッフ間で情報を共有し、質の高い介護が出来るよう努める
重点課題	質の高い同じケアを提供する
評 価	介護職員同士は、申し送り帳や月・木・日曜日の昼食休憩後に行なわれる5分間ミーティングなどを活用して情報共有は行なっているが、職種間では伝え忘れ等が時々あり、相談員を中心情報伝達に努める必要がある。
医務室 基本目標	・利用者が高齢化とADLの低下で重度化している為、常に日常の健康管理につとめる。 ・職員の健康管理につとめる。
重点課題	早期発見、対応する事により入院者を少なくする
評 価	入所者は安定していると思われるが、ショート利用者は看護師対応や処置と観察が多く通院対応も多くなっている。 職員については自己管理、苑管理も一応出来ていると思われるが、風邪を引いた職員が無理に出勤し利用者へ感染するパターンが季節の変わり目に多くある
食事サービス 基本目標 1	安定した味付けで尚且つ美味しい食事の提供
重点課題	給食会議にて、度々肉の硬さや味噌汁の味付け等についてご意見をいただきました。安定した味付けを目指す為に、調理師同士での調理方法、調理手順について検討していきます。
評 価	各調理師が正確な計量を行い、調理工程も統一したため、味付けのバラツキが少くなりました。また以前に比べて、給食会議や検食簿にて食事に対しての指摘が少なくなりました。

基本目標 2	迅速かつ正確な個人対応を行う。
重点課題	利用者様の形態変更や禁止食品等の個人対応のミスを無くしていきます。防止対策として、献立から個人対応者を把握し呼びかけを行い、間違いを無くす工夫をしていきます。また、全スタッフが正確な検品を行えるように指導していきます。
評価	時々配膳ミスがありましたが、その多くが形態変更等の直後なので、今後の防止策として変更後の周知・確認作業を徹底します。
基本目標 3	厨房スタッフ全員の衛生知識の向上
重点課題	衛生知識の向上のために毎月テーマを決め、テキストを参考に勉強していきます。
評価	毎月テキストを用意し知識の再確認を行いました。今年度も継続します。
栄養管理	他職種との連携を深め、それぞれの利用者に適したサービスを提供していきます。
基本目標 1	
重点課題	他職種との報・連・相に注意し、ケアの向上に努めます。
評価	看護師、相談員、介護職と相談し合いながら個人対応が出来たと思います。今後も継続します。
基本目標 2	栄養情報の提供
重点課題	食事や栄養の情報提供を定期的に行い、食に対する意識の向上を目指します。
評価	郷土料理等の食事の由来に関する情報提供を行いました。今後も継続します。

養護老人ホーム富士見園事業報告

1. 基本方針

- 1 利用者の皆さんの自立と個人の尊重を重んじ、生きがいを持ち、安心して楽しい生活が出来るように支援します。
- 2 職場の将来展望において、職員全員が共通意識のもと、意識改革と自己研鑽を積み、働く喜びを共に感じられる職場にします。
- 3 一施設としての事業展開にとどまらず、広く地域の福祉推進者としての視点を常に持ち行動します。

2. 入所者の状況

1) 実施機関別在園者数

H26.3現在

機関 性別	大宮区	西区	北区	見沼区	中央区	桜区	浦和区	南区	緑区	岩槻区	熊谷市	蓮田市	富士見市	志木市	合計
男	14	3	12	7	2	0	1	0	0	2	0	1	1	0	43
女	11	10	5	12	2	0	2	0	1	0	1	0	1	0	44
計	25	13	18	19	4	0	3	0	1	2	1	1	2	0	89

2) 年齢別在園者数

各年度末調べ

年 度	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
	年 齢	男	女	男	女	男	女	男
65 歳以下	1	1	2	1	0	1	0	1
65~70	2	4	3	4	4	4	2	4
71~75	7	7	8	5	8	4	10	5
76~80	17	9	18	5	18	6	11	7
81~90	5	22	3	19	10	21	19	22
91~99	0	8	0	9	0	6	1	7
100 歳以上	0	2	0	1	0	1	0	0
計	32	53	37	47	40	45	43	46
総 計	85 名		84 名		85 名		89 名	

※平均年齢 男 78.7 歳 女 81.0 歳 平均 79.9 歳 最高年齢 男 91 歳 女 98 歳

3) 月別入・退所者状況

H25年度分

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
在籍	85	83	82	85	85	85	83	88	88	88	86	89			
入園	男	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	1	7	13
入園	女	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	2	6	
退所	男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	7
退所	女	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	5	

4) 退所事由別

H25年度分

年齢 性別	死　亡	施設替え (特定施設等)	入　院 (措置切れ)	家庭復帰	計
男	0	2	0	0	2
女	1	2	2	0	5
計	1	4	2	0	7

5) 入園前の居所別

H26.3末現在

居所 性別	家　庭						小計	病院 老健	施設 (救護) (厚生) (身障) (ホーム)	計
	配偶者	子供	兄弟 姉妹	その他 の親族	ひとり 暮らし	その他 雇主等				
男	1	4	3	1	17	4	30	2	1	43
女	0	10	5	5	34	0	54	2	0	46
計	1	14	8	6	51	4	84	4	1	89

6) 在園期間別

H26.3末現在

居所 性別	1年 未満	1年	2年	3年	4年	5年	6~9	10~ 14	15~ 19	20 年以 上	計
男	5	6	3	5	7	3	9	3	1	1	43
女	6	3	1	4	5	3	14	6	3	1	46
計	11	9	4	9	12	6	23	9	4	2	89

7) 介護保険認定状況

H26.4.1現在

区分	要支援Ⅰ	要支援Ⅱ	要介護Ⅰ	要介護Ⅱ	要介護Ⅲ	要介護Ⅳ	要介護Ⅴ	合計
男	1	1	14	4	3	1	0	24
女	3	7	10	6	2	1	0	29
計	4	8	24	10	5	2	0	53

8) 職員体制

H25.3 末現在

種別	区分	職 種	配置基準	配置人員	備 考
養護老人ホーム富士見園	養護共通職員	施設長	1	1	
		事務員	2	2	
		看護師	1	1	
		栄養士	1	1	
		調理員	4(1)	4(3)	
		医師	(1)	(1)	嘱託医
		宿直警備員		(3)	
	養護本体	主任生活相談員	1	1	
		生活相談員	1	1	
		主任支援員	1	1	
		支援員	3	3	
富士見園	管理 者	※1	※1	※施設長兼務	
特定施設生	生活相談員	1	1		
活 介護事業所	計画作成担当者	1	1	※養護主任相談員兼務	
介護事業所	介護職員	3	3	要介護者（人員・10：1）	
富士見園	管理 者	※1	※1	※施設長兼務	
訪問介護事 業所	サービス提供責任者	2	2		
	訪問介護員	1.5	9(3)		
合 計			39	介護職員：入居者数	1:4.39

9 富士見園基本目標（重点課題）に対する自己評価

基本目標1	利用者が安全に快適に過ごせる環境を積極的に整備していきます
重点課題	① 居室のバリアフリー化を実施します。 ② 作業室・談話室・ショート部屋など使用目的の見直しを行い、有効に利用できるように整備していきます。
評 価	① 1階居室（個室を除く）が全てバリアフリー化にすることが出来た。 ② ショート部屋を多目的な場所として使用できるように改修工事を行った。
基本目標2	業務手順の見直しを行いサービスの向上を図ります。
重点課題	① 必要とされる支援を的確に提供できるよう支援内容・提供時間等の見直しを行い、利用者に必要な支援を具体的に提供できるように努めます。 ② 各委員会・勉強会を開催し、サービス向上及び職員のスキルアップを図ります。
評 価	① 特に特定利用者への業務の見直しを行い、より安全で快適な支援

	<p>が出来るように改善された。</p> <p>② 委員会・勉強会が定例化され、積極的に実施されるようになった。今後も様々な課題や問題提起を職員自ら発し、積極的に取組む様にしていきたい。</p>
基本目標 3	資格取得及び研修会等への積極的な参加を働きかけること
重点課題	<p>①年間研修計画に基づき、専門的知識・技術の習得、資質の向上のため全職員の研修会参加を実施します。</p> <p>② 職員の「チャレンジプラン」での能力開発目標に基づき、職員の資格取得やスキルアップのための研修会・講習会への参加を積極的に支援していきます。</p>
評価	<p>①昨年発足した県老施協の養護・軽費部会に、養護老人ホーム分科会研修会や講習会を通じ、養護の職種別研修や施設見学等に参加し貴重な意見交換等が実施出来た。</p> <p>②本年度は介護福祉士に1名チャレンジし取得することが出来た。</p>
基本目標 4	防災体制・感染予防対策の整備強化図ること
重点課題	<p>①防災体制の整備として消防計画、地震・風水害等に対処するための防災計画を整備していきます。</p> <p>②災害時に必要な給食給水及び資機材配備の整備を行います。</p> <p>③緊急時の対応が迅速且つ的確に実施出来るための訓練・講習会を実施します。</p>
評価	<p>①炊き出し訓練を実施した。昨年とは別な非常食を使用し厨房職員以外の事務職・介護職員等が中心になり、炊き出しを実施した。</p> <p>②昨年の教訓を生かし感染対策を早期に徹底するなど、出来ることを最大限実施した。本年度はインフルエンザや胃腸炎等の集団感染は発生しなかった。</p>
基本目標	地域に密着した福祉拠点であること
重点課題	<p>①地域福祉の拠点として施設の役割・機能を最大限発揮していくこと</p> <p>②地域との交流を積極的に持ちながら、地域との共存を深めること</p> <p>③介護体験や社会体験などを目的とした研修生・実習生を積極的に受け入れていきます。又、ボランティア等についても内容・目的など調整し受け入れていきます。</p>
評価	<p>①お花見の会・納涼祭共に地域の皆様をお招きして盛況に実施することができた。</p> <p>②困難事例者の緊急ショートが多く、対応に苦慮することが多かった。</p> <p>③富士見園利用者への運動教室が定例化され、参加者の運動意欲の向上と健康意識が高まった。又、西区、指扇公民館などの依頼により三恵会ウエルネスクラブによる運動教室を開催し、好評を得た。</p>

セクション別基本目標（重点課題）に対する自己評価

養護 基本目標	利用者の ADL・IADL の低下を防ぎ、園で安心して楽しく、1 日でも長く生活出来る様、自立に向けて支援していく
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の状態を把握し、その人にあった支援をしていく。出来る所は行ってもらい、出来ない所を支援していく。(洗濯・掃除等) ・ゲームに参加していない利用者への参加を促す。 ・水分補給・手洗い・うがいの徹底。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に状態を把握し、洗濯・排泄は行えたが居室掃除等が疎かになってしまった。 ・新しく入所された方達は声掛けにより参加してくれているが、昔からの方達の参加が少なかった。 ・水分補給・手洗い・うがいも定着してきており、徹底できた。
特定 基本目標	自立した園生活を過ごせる計画書の作成
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの把握 ・信頼関係の維持(家族も含め) ・入院者への対応 ・報・連・相の徹底
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの把握・信頼関係の維持はモニタリングにて行なえた。 ・今年度は入院される方が少なかったが、その都度、入院中の様子を確認にする等、対応を行なった。 ・報告・連絡・相談を行ない、業務に支障を出すことはなかった。
訪問 基本目標	個人の暮らしを尊重しつつ、集団で明るく動きのある生活を楽しんで頂けるよう見守る
重点課題	足腰の低下が重篤にならないよう、園内外散歩・レクリエーション等に参加して頂く。また、認知度が悪化しないように脳への刺激を促すよう簡単な手作業などに参加して頂く。
評 価	ADL の低下に伴うことに関する歩行はまづまずだった。無理強いせず散歩・レクリエーションに参加して頂く事が出来た。認知度の悪化:多くの方に声掛けして参加を促せた。いずれも参加する方はほぼ決まった方でした。参加はしないが見ている人が増えた。
医務室 基本目標	体力・抵抗力の増進
重点課題	園の食事を摂取し免疫力の強化 ゲームに参加し体力をつける 手洗い・嗽の継続
評 価	年3回この事で話をしたが、外部販売購入を控えてくれた人もあった。全体的に見ると達成できたと思うが、外出等での購入については把握できなかった。次年度も継続課題にしていきたい。

	ゲーム参加、嗽手洗いについては中程度の評価。
厨房 基本目標	ひとりでも多くの皆様に満足頂ける食事作りを目指す
重点課題	<p>衛生面 下処理の見直し及び調理工程の見直し</p> <p>体調管理 健康管理に努める。又、体調不良者(家族)の把握と対応の実施</p> <p>栄養面 過不足栄養素の摂取について検討 在園者によろこんで頂ける献立作成</p>
評 価	<p>保健所の衛生指導の下、下処理の工程見直しを行なった。</p> <p>今後も健康管理に努める。</p> <p>嗜好調査では、昨年より満足して頂いている方が増えた。今後もよろこんで頂ける食事作りを目指す。</p>

特別養護老人ホームひかわ事業報告

1. 事業概要

1. 利用者、一人ひとりに合った援助を心がけ、ひかわでよかったですと、利用者とその家族に思ってもらえるよう努力します
2. 施設の全体行事として、あおぞら市・納涼大会・敬老会を行なう

2. 月間利用者数 (特養、短期合計)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
24年	3,256	3,378	3,399	3,543	3,627	3,484	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	3,470	3,287	3,464	3,566	3,139	3,528	41,141
25年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	3,440	3,615	3,509	3,607	3,567	3,402	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	3,635	3,491	3,621	3,534	3,245	3,555	41,527

3. 退所の状況

退所者 23名 (昨年度 24名)

性別	年齢	介護度		性別	年齢	介護度	
男	82	5	療養移動	女	91	1	病院
女	92	3	施設にて急変	女	77	4	施設にて急変
女	89	4	病院	女	95	5	病院
女	89	1	いわき市へ	女	91	4	病院
女	93	3	看取り	女	83	5	看取り
女	89	5	看取り	女	85	1	病院
女	96	1	看取り	女	95	5	看取り
女	92	3	病院	女	93	4	病院
男	87	5	看取り	女	96	5	病院
女	82	3	施設にて急変	女	83	3	看取り
女	93	2	病院	男	81	3	病院
女	97	5	看取り				

4. 入居者の年齢構成

(3月末日現在)

	60~ 64	65~ 69	70~ 74	75~ 79	80~ 84	85~ 89	90~ 94	95~	平均	最高齢
男	0	0	3	0	3	7	5	2	86.2	98
女	0	1	2	6	16	20	26	19	88.2	101
計	0	1	5	6	19	27	31	21	87.8	

5. 入居者の介護度別人数

(3月末日現在)

介護度	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	平均介護度
24年	12	18	26	28	19	3.23
25年	8	23	27	36	16	3.26

6. 月別入・退所者状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計		
在籍	104	108	107	105	103	104	104	103	102	98	100	102			
入院者	2	1	1	2	5	3	4	5	4	6	4	6			
入所	男	0	1	1	0	0	2	0	1	0	1	0	2	8	23
	女	0	3	0	0	2	1	2	0	0	1	1	5	15	
退所	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	23
	女	1	1	2	1	1	3	1	1	2	4	1	2	20	

7. 職員の状況 (特別養護老人ホーム、短期入所事業所の合計)

職名	人数		兼務の状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
施設長	1		○	男	介護福祉士
事務長	1			女	衛生管理者
事務員	2			女	社会福祉士(1名)
相談員・ケアマネ	2		○	男	介護支援専門員、介護福祉士
相談員・ケアマネ	1		○	女	介護支援専門員、社会福祉士
ユニットリーダー	3			女	介護福祉士、介護支援専門員(1名)
ユニットリーダー	7			男	介護福祉士、介護支援専門員(2名)
ユニットリーダー	1			女	ヘルパー1級
ユニットリーダー	1			女	ヘルパー2級
介護職	17	3		女	介護福祉士、介護支援専門員(1名)
介護職	6			男	介護福祉士
介護職	2	1		女	介護職員基礎研修
介護職	5	15		女	介護職員初任者研修
介護職	1	2		男	介護職員初任者研修
介護職	2	3		女	資格なし
介護職	2			男	資格なし
看護師	2	3		女	看護師
看護師	1	1		女	准看護師
栄養士	1			女	管理栄養士
介助員		3	○	男	
宿直員		2		男	
合計	58	33	介護職員	:	入居者数 1 : 1.82

8. ひかわ基本目標(重点課題)に対する自己評価

基本目標	<p>1. 利用者一人ひとりの、当たり前の生活に近づける様ユニットケアの理解を深める。</p> <p>2. 職員の質の向上を図り、研修の実施と内容を共有する機会をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 施設内の全職員が心身ともに安定して、より良い介護が出来る研修システムの整備。 ② 研修終了後の情報の共有化を図る。 <p>3. 福祉施設として地域に根ざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 施設の一部を開放し地域活動に活用して頂く。 ② 地域の方々も参加できるような行事を取り入れる。 ③ ボランティアの受け入れの整備。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年度は各階、各ユニット共にユニット会議が増え、ユニットで話し合う機会が増えたと思う。ユニットケアへの理解は進んだと思われる。ユニットによっては職員の入れ替わりが頻繁にあり自分のユニットを軌道に乗せることで精いっぱいだった所もあった。 ・24Hシートの作成は実施できたが、見直しや活用方法等の部分で活かし切れていない様子もある。ユニットでの個別ケアへの理解は進んだと思われるが、その知識を活用し実践につなげていく事と、ユニット単位だけではなくフロアや他部署との協力をもう少し進めていく事が今後の課題。

ユニット別基本目標(重点課題)に対する自己評価

特養 A-1 基本目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりの個性を尊重し、ゆとりのある生活が送れる様支援する。 ・入居者との信頼関係が築けるよう、コミュニケーションを密にし、笑顔が絶えないユニット作り。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善を検討、実行したが、目標の「ゆとりある生活」とまではいかなかった。 ・入居者と個々にコミュニケーションを取る事により信頼関係が築けた。しかし、自立の入居者や一部の入居者に偏りがちだった。

特養 A-2 基本目標	・ユニットに関わる人とのコミュニケーションを重視し、信頼関係を深め、個別ケアの充実を図る。
評 価	・職員の異動により入居者の不安感やコミュニケーション不足を感じた。 ・個別ケアに至るまでの余裕がなく、日常生活を本人任せにしてしまった。今以上に生活の質の向上を図りたい。
特養 A-3 基本目標	・職員それぞれの特性を生かし、連携を取りながらより一層の個別ケアの充実を図る。
評 価	・担当者ごとに個別ケアへの取り組みは出来てきていると思うが、ユニット職員間の連携が不十分なところもあり、個別ケアの発展へ繋げていく事が出来なかつたので、次年度につなげたい。
特養 A-4 基本目標	・個別ケアの重要性を認識し、入居者が皆笑顔で穏やかに過ごせるユニットづくり。 ・常に向上心を持ち初心を忘れず、職員を通し連携が撮れ、お互いに思いあえるユニット作り
評 価	・業務に追われ、入居者一人ひとりに目を向けられない部分があつた。 ・職員同士の助け合える部分が少なかつた。
特養 B-1 基本目標	・入居者が、安心して過ごせるような温かいケア、声掛けを行う。 ・入居者の笑い声が増えるようなレクを工夫して考え、四季を体感できる企画を創造して心豊かな生活作りに努める。 ・健やかな身体と気持ちでケアができるよう、各自で健康管理能力を上げるよう努める。
評 価	・職員間のコミュニケーションも撮れて、入居者に優しい気持ちで接することが出来た。 ・四季を感じて頂くために、春には陶芸教室、夏はバラ見学、秋は紅葉狩り、冬はクリスマスパーティーが実施できた。 ・職員の自己健康管理が出来た。
特養 B-2 基本目標	・個別ケアを理解し、入居者の要求に答えられるよう努力する。
評 価	・ケアプランに沿った支援が十分に行き届かなかつた。 ・個別ケアの理解をする努力に終わってしまい、その人に応じた介護が出来なかつた。 ・全ての要求に応えられたかは分からぬが、応えられるように努力することは出来た。

特養 B-3 基本目標	・ケアプランに沿った支援を確立できるように、職員間でのコミュニケーションを多く取り、入居者の情報を共有することでより良いケアを行う。
評 価	・ケアプランに沿った支援が十分に行き届かなかった。 ・申し送りや日常生活を観察することで情報の共有は行えた。 ・余暇を使ってのレクリエーションを継続的に行う事が出来なかつた。
特養 B-4 基本目標	・当たり前の生活の実現を理想に、日常生活を通して一つ一つ積み上げていくことを継続する。
評 価	・当たり前の生活を目標に、軽作業、残存機能の維持の為の介護、余暇活動、環境整備等出来た。個別ニーズの対応まではいかなかつたが、日々の生活の中では継続出来た内容は増えた。 ・生活支援の中で、実施した介護記録が不十分なことから職員間での情報共有が出来ず、振り返りや他職種への引き継ぎに問題が生じることが多くみられた。ユニット会議を開催し、記録の重要性を検討し、修正（入居者、業務ファイルの作成）したが、次年度の目標として再度取り組む。
特養 C-1 基本目標	・利用者様が笑顔になれる声掛けやの仕方や、尊重した対応を行い、利用者様がお手伝いをして頂けるような環境作りを行う。
評 価	・声掛けを多く行い、お手伝いをして頂けたが、業務に追われているときなどは、自分で手早く済ませてしまうことがあったため、これからはたくさん声掛けが出来る様にしたい。 ・入居者が笑顔になれるように声掛けの工夫をしてきたが、思うような結果にならず、対応の難しさを改めて感じた。入居者のお手伝いの機会を増やすことはできそうなので継続したい。又、もう少し余裕を持ち、やっていければ良かったと思う。
特養 C-2 基本目標	・入居者との会話を重視し理解を深め、安心してもらう対応とその継続。
評 価	・ノロウィルス対策が統一できなかつた。 ・一人一人の精神的な訴えにその都度細かく対応する時間が確保できなかつた。
特養 C-3 基本目標	・入居者が主体となり、職員が、積極的に利用者様の声を聞いて毎日が楽しく生活が送れるようなユニットにする。
評 価	・外食等の行事を増やし楽しんで頂けたとは思うが、入居者に対し声掛け等が雑になってしまったことがあつた。

特養 C-4	・居心地の良い空間を作り、入居者との交流も含め楽しく生活を送ってもらう。また、行事を確実に行えるようにする。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね入居者との交流は図っていたが、他者との交流を好まない方への対応が十分ではなかった。 ・暖かい季節に、もっと外に出る機会を増やせたら良い。 ・入居者がもっと楽しめるよう、準備、工夫をして行事ができれば良かった。
医務室	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケアの再確認 ①介護の質の向上を図るべく専門職として介護職へのサポート ②個々の状態に合わせた対応による、より深い信頼関係の構築 ③個別ケアの充実 ・職員の健康管理・相談につとめる
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は看護の視点からのアプローチを充実させていく必要がある。 ・今後は精神面でのサポートが必要である。
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・サポート体制を整備し、他職種と連携していくよう心掛けたが、各専門職の価値観が相違しており、協働というところにまでは至らなかった。 ・健診結果・カウンセリングに関しては速やかに行えた。 <p>利用者が罹患する恐れのある感染症等の対応は感染症対応マニュアルに準じて拡大を防ぐことができた。体調不良の職員に適切なアドバイスを行い、医療機関への受診、欠勤、早退などの判断を行った。</p>
栄養課	<p>(食事サービス部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 入居者に季節を感じて頂けるよう、旬の食材を使用した食事の提供 ② 温かい物は温かく、冷たい物は冷たく提供できるよう、配膳までの温度管理の工夫。 ③ ユニット毎での出張料理を行い、入居者の食への関心を高め、喫食量の向上に繋げる。 ④ 入居者の嗜好を把握し、定期的な献立の見直しを行うことにより喫食量の向上と、献立のマンネリ化防止を目指す。 ④ 食事形態・禁食等の個人対応ミスを減らす為、従業員全体での把握と声かけを行う。

	<p>(栄養管理部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 個々人の栄養状態及び嗜好の把握をする事により、喫食量の向上と健康面の安定を図る。 ② ユニットの特性を生かし、ユニット単位の料理・菓子作りの企画と協力。
評価	<p>(食事サービス部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①イベント食以外では、季節感の有る食事の提供があまり出来なかった。 ②適温での料理提供は、配膳時間に合わせての盛り込みを心がけたがユニット配膳時には冷めてしまっていることが多く、同設備での実現は難しいのが現実だった。 ③出張料理を二回行い、入居者には喜んでいただいたと思う。来年度は、回数を増やして行きたい。 ④使用食材の見直しを行い、魚の喫食量が増えてきた。今後も残菜量等の確認を行い、食材の改善に努めたい。 <p>(栄養管理部門)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①入居者個々の把握が徐々に出来ている。これからも引き続きしていく。 ②ユニット単位で入居者の笑顔が見える食作りが出来た。（ユニットへの出張料理）

通所介護事業報告

1. 事業概要

特養併設型通所介護事業所として、要介護・要支援者を対象に通常型のディサービスで日帰り介護をし、在宅での生活が維持できるよう支援しています。また、介護認定非該当でも市から認められた方の利用（生きがい活動支援通所事業）と、要介護認定申請に至らない方向けの「ふれあい教室」事業をさいたま市から受託し、介護予防事業の一端を行っています。

2. 月間利用者延人数

年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	688	736	704	674	662	597	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	726	673	668	584	581	606	7,899
年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	636	665	577	641	56	568	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	655	604	616	544	513	586	7,191

3. 介護度別利用者数

(3月末現在)

介護度	要支援		要介護				
	I	II	1	2	3	4	5
24年度	13	7	27	20	8	3	2
25年度	13	6	25	15	12	1	2

4. 職員の状況

職名	人数		兼務の 状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
相談員（管理者）	1		○	男	介護支援専門員、社会福祉士
相談員	1			男	介護支援専門員、介護福祉士
介護職	3	2		女	介護福祉士
介護職	1			女	社会福祉主事
介護職		4		女	ヘルパー2級
介護職	1			女	
看護師		1		女	正看護師
看護師		1		女	准看護師
運転手		4		男	普通自
合計	7	12	介護職員	：	利用者数 1 : 2.25

5. 事業所で特別に行ったこと

- 利用者さんのお誕生日に、お花のプレゼント。
- お花見、節分、ひな祭り、クリスマス会などの行事。
- 敬老の日前後に、「感謝祭」を開催。他部署の職員にも加わってもらう。
- さつま芋・野菜・花等の園芸活動や、桜・バラ・コスモス観賞のドライブ。
- 各種舞踊やマジック、朗読会などのボランティアをお招き。

6. 基本目標（重点課題）に対する自己評価

基本目標	1. 利用者が安心する声かけ、元気が出る声かけを意識し接遇の向上に努めます。 2. 利用者 1 人 1 人が主役になれる場面を作り、生活意欲の向上に努めます。
重点課題	1. 職員のスキルアップ
評価	・年2回の自己評価と個人面談を行い、職員一人一人の課題・目標等を確認することができた。 ・16件のヒヤリハット事例が集まった。職員の意識を向上し、より多くの事例を集め事故防止に役立てていきたい。 ・11件の所外研修と非常勤も含めた1回の苑内研修(DVD 研修)を行った。また今回初めて、他事業所(8件)への見学を実施し相談員・介護職・看護師すべての職員が参加することができ良い刺激となった。
重点課題	2. サービスの質の向上
評価	・新しい遊びリテーションを作成し、利用者に楽しみながら体を動かしてもらえた。また、選択レクリエーションでは園芸・手芸・映画・外出など行った。新たに行った博物館見学など好評を得ている。今後も魅力のある選択肢を用意し、利用者に選ぶ楽しみを味わってもらえるよう努めていく。 ・脳トレを楽しみにしてくれている利用者も多く、毎回積極的な発言が見られている。口腔体操を自宅でも行っているとの利用者の声もあり成果を感じています。 ・園芸活動では綿・麦・サツマイモ・ジャガイモ・人参・大根等、色々な野菜を収穫することができた。畑では皆、生き生きとした表情を見てくれています。収穫したものは焼き芋や、厨房で調理してもらい利用者の皆さんに好評をいただいています。 ・毎月ミーティングで変更事項の確認等、情報の共有ができた。 ・サービス計画書、モニタリングの新しい書式を作成したが実行が滞っている。今後は定期的な実行、見直しを行っていく。

重点課題	3. 人材確保
評価	<ul style="list-style-type: none">・介護福祉士2名合格。今後も資格取得希望者への勤務調整、情報提供等協力している。・月1回のミーティングを滞りなく行うことができた。今後も意見交換を活発に行いチームワークの向上に努めていく。・ボランティア強化月間(6・11月)を作り、積極的に新しいボランティアを受け入れることができた。

訪問介護事業報告書

1. 事業概要

在宅で生活している要介護・要支援者に、入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の支援を行っています。また、要介護認定非該当でも市が必要と認める方への家事の援助（生活援助員の派遣事業）も行いました。

2. 月間派遣延時間

4月	5月	6月	7月	8月	9月
328.0	299.5	299.5	320.5	349.0	315.9
10月	11月	12月	1月	2月	3月
350.4	343.1	311.0	297.0	279.0	270.8

3. 介護度別利用者数

(3月末現在)

要介護度	要支援	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5
24年度	27	8	13	5	2	2
25年度	20	10	11	6	2	1

4. 事業所で特別に行ったこと

- 利用者さんのお誕生日にお花のプレゼントを行っています。
- さいたま市からの委託事業で、介護保険要介護認定自立のお年寄りにサービスの提供をしています。

5. 職員の状況

(3月末現在)

職名	人数		兼務の 状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
主任（管理者）	2		○	女	介護福祉士
ヘルパー		4		女	ヘルパー2級、介護福祉士（1）
合計	2	4			

6. 基本目標（重点課題）に対する自己評価

基本目標 1	職員のスキルアップ
重点課題	隔月のミーティングを通して報告・連絡・相談を行い、利用者の在宅環境の変化に気付き安心して在宅生活が行えるようにしていきます。
評 価	職員研修の時間が思うように取れませんでした。

	非常勤職員の退職により、利用者の方の状況確認が思うように出来ない部分も出てしましましたので、今後は随時確認を行っていくようにしていきたいと思います。
基本目標	サービスの質の向上
重点課題	個別計画書の随時見直しを行い、統一したサービス内容で行なっていきます。
評価	変更などに於いては口頭にて行っていました。計画書の見直しについては状況確認を随時行い、作成していきます。 状況変化などに気づき、他の事業所との連絡・相談を行い、変更を速やかに行っていけるように今後も努力していきます。
基本目標	サービスの質の向上
重点課題	自分の役割をきちんと認識し、適切に行動が出来る様に努力します。
評価	担当者の判断は出来てきています。 不充分な部分については今後、より適切に出来る様話し合いを継続していけるようにします。

在宅介護支援センター事業報告

1. 事業概要

在宅で生活しているお年寄りが、日常生活を営むために必要な保健医療サービス又は福祉サービスの適切な利用をすることが出来るよう計画を作成すると共に、市からの事業受託にて独居高齢者等の実態把握や介護サービス啓発のための事業などを行っています。

2. 月間利用者数 () 内は昨年度件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月
223(226)	221(225)	225(219)	220(215)	218(218)	216(216)
10月	11月	12月	1月	2月	3月
216(219)	215(222)	212(231)	212(226)	209(218)	209(224)

3. 介護度別利用者数 (3月末現在)

要介護度	要支援 1	要支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5
24 年度	9	13	62	66	32	32	10
25 年度	9	9	58	64	41	19	9

4. 事業所で特別に行ったこと

- 介護者サロン(「脱、脱水」・「リフレッシュ体操」) 2回
- 県立大学IP演習参画
- 公民館出張無料相談会 6回
- 一人暮らし高齢者世帯見守り訪問
- 民協への広報活動 3回
- ふれあい会食で相談窓口の設置(指扇及び内野地区社協) 12回
- 西区区民まつりへの出展(介護予防の啓発)
- 認知症サポータ-養成講座「劇団にしく」への参加

5. 職員の状況

(3月末現在)

職名	人数		兼務の 状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
セカ-長(管理者)	1		○	男	介護支援専門員
ケアマネ	4	1		女	介護支援専門員
合計	5	1			

6. 基本目標（重点課題）に対する自己評価

基本目標	地域になくてはならない事業所として評価を得られるよう、利用者はその方らしく、介護者も安心して生活ができる支援をする。
重点課題	職員のスキルアップ
評価	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の自己評価と毎週一回の定例会(計51回)を実行しました。特に定例会では目の前の事例を皆の前で報告することで自分の欠点に気づける機会になりました。 ケアマネジャー6名中5名が5年以上のキャリアとなり、仲間の不足している点を上手に指摘できるようになりました。
重点課題	サービスの質の向上
評価	<ul style="list-style-type: none"> 市のケアマネ協会やサービス事業者連絡協議会及び医師会などの外部機関主催研修会へ積極的に参加(20回)しました。 医療機関との連携について、病院については入院時と退院時に情報を共有し利用者の生活に連続性が持てるよう努めました。病院により窓口や対応方法が様々ですが、病院ごとのその違いを事業所内で情報共有しています。医院については先生方の介護保険や在宅介護への理解が深まっており、業務はスムースになっています。 年度末に一名異動があり、新任ケアマネジャーが入職しました。他の職員が初心に帰る機会としても活用し、事業所のサービスレベルを落とさないよう気をつけています。
重点課題	地域の中の事業所として
評価	地域包括支援センター機能の充実の為か、今年度は対応困難な事例を扱うことが少なかったように感じます。そのプランチとしての在宅介護支援センターとしては、今年度も指扇地区社協主催の会食会にも毎月訪問し、1月からは内野地区へも訪問できるようになりました。また、年間6回の無料出張相談会の他に、介護者サロンを2回開催し、次年度へも繋げられるよう企画を継続しています。

地域包括支援センター事業報告

1. 事業概要（実績）

	介護予防支援	包括的継続的ケア	ネットワーク構築	その他
H25 4月	・出前講座（下宝来） ・いきいき運動塾	・北部圏域ケアマネ情報交換会	・西区地域ケア会議	
5月	・いきいき運動塾 ・出前講座（峰友会）	・北部圏域ケアマネ情報交換会	・地域ケア会議全大会 ・指扇地区民協 ・内野地区民協 ・指扇地区社協総会 ・地域支援会議 ・西区高齢課定例会	・介護者サロン ・GH みんなの家高木運営推進会議 ・扇の森WEST運営推進会議 ・GH ふるさとの家運営推進会議
6月	・いきいき運動塾 ・出前講座（県営大宮宝来団地） ・出前講座（にこにこサロン） ・出前講座（中釘やよい会） ・出前講座（二水会） ・出前講座（下宝来） ・出前講座（のびのびサロン）	・西区ケアマネ会議	・指扇地区地域福祉関係機関連絡会 ・西区地域ケア会議 ・西区地域包括連絡会	・サービス事業者連絡会包括部会 ・劇団にしく（植水地区社協）
7月	・出前講座（にこにこサロン） ・出前講座（ライオンズガーデン） ・出前講座（オーベル） ・出前講座（太陽が丘団地） ・いきいき運動塾	・北部圏域ケアマネ情報交換会	・西区地域ケア会議	・介護者サロン ・扇の森WEST運営推進会議 ・GH ふるさとの家運営推進会議
8月	・いきいき運動塾 ・出前講座（シルバー人材センター）		・地域支援会議 ・内野地区社協行動計画連絡会 ・指扇地区社協行動計画策定委員会 ・指扇地区地域福祉関係機関連絡会	・認知症サポーター養成講座（島忠） ・劇団にしく（キャラバンメイトフォローアップ研修） ・サービス事業者連絡会包括部会
9月	・いきいき運動塾 ・出前講座（上郷・中郷・下郷・宿・新屋敷敬老会） ・出前講座（サニーホーム） ・出前講座（オーベル） ・出前講座（内野地区社協会食会） ・出前講座（西新井老人会）	・北部圏域ケアマネ情報交換会	・西区地域ケア会議	・認知症サポーター養成講座（武蔵野銀行指扇支店） ・劇団にしく（太陽が丘団地） ・認知症サポーター養成講座（GH みんなの家清河寺） ・扇の森WEST運営推進会議 ・劇団にしく（土屋中学校） ・介護者サロン
10月	・いきいき運動塾 ・出前講座（指扇地区社協会食会）	・北部圏域ケアマネ情報交換会	・指扇地区地域福祉関係機関連絡会 ・西区地域ケア会議	・認知症サポーター養成講座（GH ふるさとの家） ・認知症サポーター養成

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 議 ・ 指扇地区社協行動計画策定委員会 ・ 西区高齢課定例会 	講座（GH みんなの家 高木）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ いきいき運動塾 ・ 出前講座（住友団地サロン） ・ 出前講座（太陽が丘団地） ・ 出前講座（下宝来団地） ・ 出前講座（さしおうぎ団地） ・ 出前講座（にこにこサロン） ・ 出前講座（サロンひかわ） ・ 脳トレーニング教室（指扇公民館） 	・西区認知症ケア連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4区合同地域ケア会議 ・ 西区地域包括連絡会 ・ 内野地区民協 	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス事業者連絡会包括部会 ・ 劇団にしく（島根自治会） ・ GH ふるさとの家運営推進会議 ・ 認知症センター養成講座（富士見園） ・ 扇の森WEST運営推進会議 ・ 介護者サロン
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳トレーニング教室（指扇公民館） ・ 出前講座（けやき台・コーヒーサロン） ・ 出前講座（下宝来） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 内野地区民協 ・ 指扇地区民協 ・ 西区高齢課定例会 ・ 西区地域ケア会議 	
H26 ・ 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座（下宝来） ・ 出前講座（にこにこサロン） ・ 出前講座（オーベル） ・ 出前講座（木ノ下自治会婦人部） ・ 出前講座（清河寺ふれあい館） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域支援会議 ・ 地域ケア会議全体会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護者サロン
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ いきいき運動塾 ・ 出前講座（梅園会） ・ 出前講座（オーベル） ・ 出前講座（にこにこサロン） ・ 出前講座（ライオンズガーデン） 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 西区地域ケア会議 ・ 西区高齢課定例会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 扇の森WEST運営推進会議 ・ 認知症センター養成講座（西区役所）
3月 (予定含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座（西区民生委員高齢福祉部会） ・ 出前講座（高木自治会館） 	西区ケアマネ会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西区地域ケア会議 ・ 地域支援会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 劇団にしく（西中学校） ・ 介護者サロン

2. 月間利用者数

24年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	204	213	214	208	213	214	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	220	223	230	225	231	237	2,632
25年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
	241	247	248	252	260	256	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	261	260	262	261	260	247	3055

3. 職員の状況

職名	人数		兼務の 状況	性別	資格
	常勤	非常勤			
支援専門員	1			男	
主任支援専門員	2	1		女	介護支援専門員 介護福祉士
看護師	1			女	看護師 介護支援専門員
社会福祉士	1		○	男	社会福祉士 介護支援専門員
合計	5	1			

4. 基本目標（重点課題）に対する自己評価

基本目標 1	地域支援会議が有効に活用できるようにする。
評 価	今年度は、地域支援会議を4回開催している。会議の前に事前に資料を送付し、会議時間の有効活用ができるようになった。そのため、会議では以前よりも事例の発表、検討ができるようになった。来年度は、地域支援個別会議の開催が義務付けされることもあり、地域支援会議と地域支援個別会議が連動できるようにしていきたい。
基本目標 2	成年後見制度の周知については、消費者被害や高齢者虐待と合わせての広報に力を入れていく。
評 価	出前講座の中で消費者被害、高齢者虐待に関連し成年後見制度の周知を行った。しかし、実績として相談件数は少なかったので、今後も広報を継続していく。
基本目標 3	消費者被害については、ケアマネ会議等を通じ情報提供していく。
評 価	圏域のケアマネ会議の際は消費生活支援センターが作成している季刊のチラシを配布することができた。3月には、他地域包括支援センターと合同で区内のケアマネジャー対象に消費生活支援センターの職員を講師に向かえ勉強会を開催する。
基本目標 4	困難事例については、ミーティング等で意見を統一し、センターとして対応していく。
評 価	対応困難な事例については週1回のミーティング時に意見を出し合い、対応の確認を行った。その他、ケアマネジャーからの相談があった際は、来所していただき他職種で対応したこともあった。ケアマネジャーからも肯定的であったので来年度も続けていきたい。
基本目標 5	出前講座等を通じ、介護予防教室を周知していく。
評 価	出前講座にて周知した。出前講座を受けた方には「必要」との声があり、介護予防教室の有効性が伝わったと思われる。そのためか介護予防教室の実人数も昨年度より増加している。

基本目標 6	認知症サポーター養成講座を高齢者以外の世代を対象とし実施する。
評価	中学校にて2回、劇を通して行うことが出来、若い世代に認知症のことを伝えることが出来た。講座を受けた生徒の反応も好評であり、引き続き行っていきたい。
基本目標 7	介護者サロンでは、参加者の意見を取り入れながら行っていく。
評価	アンケートを取り、可能なものは提供していった。参加者には満足して頂けたと思われる。しかし、参加する方が少なかったので広報を拡充していく必要があると思われる。

財産目録

平成26年 3月31日 現在

(単位:円)

資産・負債の内訳	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	434,421,269	
現金	547,597	
埼玉県信用金庫(普・三恵苑)	39,479,838	
埼玉県信用金庫(デイサービス)	7,473,898	
埼玉県信用金庫(普・支援)	23,694,489	
埼玉県信用金庫(普・本部)	19,964,520	
埼玉県信用金庫(普・ひかわ)	162,052,945	
埼玉県信用金庫(普・富士見)	97,740,144	
埼玉県信用金庫(訪問介護)	727,275	
埼玉県信用金庫(普・包括)	11,549,435	
埼玉りそな銀行	798,912	
清河寺郵便局(普通)	40,358,981	
埼玉県信用金庫(三・振込用)	33,235	
埼玉県信用金庫(定・富士見)	30,000,000	
事業未収金	169,005,354	
介護保険未収金	136,866,168	
利用者負担未収金	16,729,885	
その他未収金	15,409,301	
立替金	6,500	
仮払金	199,380	
流動資産合計	603,632,503	
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
土地	さいたま市西区大字中釤西光坊 2219番地4 宅地 2122.18m ² 2217番地2 宅地 442.97m ² 2220番地2 宅地 1259.50m ² さいたま市西区高木 892番地 宅地 3,643.81m ²	356,552,200
建物	1,285,559,320	
基本財産特定預金	1,000,000	
基本財産合計	1,643,111,520	
(2) その他の固定資産		
建物	12,596,145	
構築物	41,560,307	
車輌運搬具	4,568,888	
器具及び備品	20,388,424	
ソフトウェア	386,673	
措置施設繰越特定預金	30,000,000	
その他の固定資産	52,746,150	
リサイクル預託金	306,270	
共助会退職金預け金	52,339,880	
その他の固定資産	100,000	
その他の固定資産合計	162,246,587	
固定資産合計	1,805,358,107	
資産合計	2,408,990,610	
II 負債の部		
1. 流動負債		
事業未払金	21,918,282	
1年以内返済予定設備資金借入金	23,070,000	
職員預り金	410,400	

財産目録

平成26年 3月31日 現在

(単位:円)

資産・負債の内訳	金額
その他預り金	410,400
仮受金	127,255
流動負債合計	45,525,937
2. 固定負債	
設備資金借入金	276,840,000
退職給付引当金	52,339,880
固定負債合計	329,179,880
負債合計	374,705,817
差引純資産	2,034,284,793

資金収支計算書

(自) 平成25年 4月 1日 (至) 平成26年 3月31日

第1号の1様式

(単位:円)

勘定科目		予算	決算	差異			
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入 老人福祉事業収入 富士見園特定施設受託料収入 経常経費寄附金収入 受取利息配当金収入 その他の収入 事業活動収入計(1)	1,103,822,000 169,200,000 36,000,000 1,453,000 35,000 8,706,000 1,319,216,000	1,094,789,126 168,657,592 31,807,188 1,494,399 86,129 8,293,139 1,305,127,573	-9,032,874 -542,408 -4,192,812 41,399 51,129 -412,861 -14,088,427		
	支出	人件費支出 事業費支出 事務費支出 支払利息支出 その他の支出 流動資産評価損等による資金減少額 事業活動支出計(2)	862,003,000 198,323,000 152,392,000 6,137,000 7,893,000 1,226,748,000	863,999,893 202,677,554 149,246,709 6,136,620 7,943,068 30,048 1,230,033,892	-1,996,893 -4,354,554 3,145,291 380 -50,068 -30,048 -3,285,892		
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		92,468,000	75,093,681	-17,374,319		
	収入	固定資産売却収入 施設整備等収入計(4)		5,000 5,000	5,000 5,000		
	支出	設備資金借入金元金償還支出 固定資産取得支出 施設整備等支出計(5)	23,070,000 8,600,000 31,670,000	23,070,000 8,372,905 31,442,905	227,095		
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-31,670,000	-31,437,905	232,095		
	収入	その他の活動による収入計(7)					
	支出	その他の活動支出計(8)					
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)						
	予備費支出(10)			—			
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			60,798,000	43,655,776	-17,142,224		
前期末支払資金残高(12)			537,520,790	537,520,790			
当期末支払資金残高(11)+(12)			598,318,790	581,176,566	-17,142,224		

事業活動計算書

(自) 平成25年 4月 1日 (至) 平成26年 3月31日

第2号の1様式

(単位:円)

勘定科目			当年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	1,095,209,127	1,071,741,710	23,467,417
		老人福祉事業収益	168,657,592	166,336,288	2,321,304
		富士見園特定施設受託料収入	31,807,188	30,061,234	1,745,954
		経常経費寄附金収益	1,494,399	1,620,000	-125,601
		サービス活動収益計(1)	1,297,168,306	1,269,759,232	27,409,074
	費用	人件費	864,298,393	849,242,763	15,055,630
		事業費	202,677,554	203,551,877	-874,323
		事務費	149,246,709	143,744,851	5,501,858
		利用者負担軽減額	420,001		420,001
		減価償却費	86,659,873	96,593,115	-9,933,242
	△国庫補助金等特別積立金取崩額		25,046,104	29,778,523	-4,732,419
	徴収不能額		30,048		30,048
	サービス活動費用計(2)		1,278,286,474	1,263,354,083	14,932,391
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		18,881,832	6,405,149	12,476,683
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	86,129	63,601	22,528
		その他のサービス活動外収益	8,583,029	9,259,929	-676,900
		サービス活動外収益計(4)	8,669,158	9,323,530	-654,372
	費用	支払利息	6,136,620	6,574,950	-438,330
		その他のサービス活動外費用	7,943,068	8,433,078	-490,010
		サービス活動外費用計(5)	14,079,688	15,008,028	-928,340
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		-5,410,530	-5,684,498	273,968
	経常増減差額(7)=(3)+(6)		13,471,302	720,651	12,750,651
特別増減の部	収益	固定資産売却益	5,000		5,000
		サービス区分間繰入金収益		30,000,000	-30,000,000
		特別収益計(8)	5,000	30,000,000	-29,995,000
	費用	固定資産売却損・処分損		222,617	-222,604
		サービス区分間繰入金費用		30,000,000	-30,000,000
		特別費用計(9)	13	30,222,617	-30,222,604
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		4,987	-222,617	227,604
	税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		13,476,289	498,034	12,978,255
	法人税、住民税及び事業税(12)				
	法人税等調整額(13)				
繰越活動増減差額の部	当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)		13,476,289	498,034	12,978,255
	前期繰越活動増減差額(15)		842,781,953	842,283,919	498,034
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)		856,258,242	842,781,953	13,476,289
	基本金取崩額(17)				
	その他の積立金取崩額(18)				
	その他の積立金積立額(19)				
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)		856,258,242	842,781,953	13,476,289

貸 借 対 照 表

平成26年 3月31日現在

第3号の1様式

(単位:円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流 動 資 産				流 動 負 債	45,525,937	41,421,008	4,104,929
現 金 預 金	603,632,503	578,941,798	24,690,705	事 業 未 払 金	21,918,282	32,239,330	-10,321,048
事 業 未 収 金	434,421,269	387,223,923	47,197,346	1年以内返済予定 設 備 資 金 借 入 金	23,070,000		23,070,000
立 替 金	169,005,354	191,477,651	-22,472,297	職 員 預 り 金	410,400	9,155,928	-8,745,528
仮 払 金	6,500	230,224	-223,724	仮 受 金	127,255	25,750	101,505
固 定 資 産	1,805,358,107	1,880,633,098	-75,274,991	固 定 負 債	329,179,880	372,299,280	-43,119,400
基 本 財 産	1,643,111,520	1,712,290,163	-69,178,643	設 備 資 金 借 入 金	276,840,000	322,980,000	-46,140,000
土 地	356,552,200	356,552,200		退 職 納 付 引 当 金	52,339,880	49,319,280	3,020,600
建 物	1,285,559,320	1,354,737,963	-69,178,643	負 債 の 部 合 計	374,705,817	413,720,288	-39,014,471
基本財産特定預金	1,000,000	1,000,000					
そ の 他 の 固 定 資 産	162,246,587	168,342,935	-6,096,348	純 資 産 の 部			
建 物	12,596,145	14,442,699	-1,846,554	基 本 金	400,344,790	400,344,790	
構 築 物	41,560,307	45,225,409	-3,665,102	基 本 金	400,344,790	400,344,790	
車 輛 運 搬 具	4,568,888	5,854,599	-1,285,711	国 庫 補 助 金 等 特 別 積 立 金	747,681,761	772,727,865	-25,046,104
器 具 及 び 備 品	20,388,424	21,210,123	-821,699	国 庫 補 助 金 等 特 別 積 立 金	747,681,761	772,727,865	-25,046,104
ソ フ ト ウ エ ア	386,673	1,908,655	-1,521,982	そ の 他 の 積 立 金	30,000,000	30,000,000	
措 置 施 設 緑 越 特 定 預 金	30,000,000	30,000,000		そ の 他 の 積 立 金	30,000,000	30,000,000	
そ の 他 の 固 定 資 産	52,746,150	49,701,450	3,044,700	次 期 緑 越 活 動 増 減 差 額	856,258,242	842,781,953	13,476,289
				次 期 緑 越 活 動 増 減 差 額	856,258,242	842,781,953	13,476,289
				(うち当期活動増減差額)	13,476,289	498,034	12,978,255
資 産 の 部 合 計	2,408,990,610	2,459,574,896	-50,584,286	純 資 産 の 部 合 計	2,034,284,793	2,045,854,608	-11,569,815
				負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	2,408,990,610	2,459,574,896	-50,584,286

脚注

1. 減価償却費の累計額
2. 徴収不能引当金の額